

セキュリティは、教育効果を高めるための重要な手段です

インターネットやパソコンを授業や校務で使う機会が、急速に増えています。先生方も、積極的に使い方を学んでいるのではないのでしょうか。しかし「情報セキュリティ」についてはどうでしょう？「難しそう」「手間がかかりそうだし、よくわからないから」と、おざなりにしていませんか？今回は、学校向けのセキュリティ対策サービスを数多く手掛ける(株)ジェイエムシーの専門家に、セキュリティの重要性と学校の現状を語っていただきました。



公共事業本部
事業推進グループ
サブマネージャー
教育情報化
コーディネータ
坪本智英さん

セキュリティの認知度は非常に低い

「学校関係者のセキュリティに関する意識は、まだまだ低いのが現状です」と語るのは、(株)ジェイエムシーの坪本智英さんです。

「パソコンがあまり得意でない先生方には、特にそれが顕著です。セキュリティとは何であるかも知らない方が、非常に多いですね。多くの先生方が『セキュリティ=複雑、難しい』というイメージを持ち、敬遠している傾向があります」

多くの学校では、パソコンやインターネットを活用した授業がはじまったばかり。子どもたちの作品をデータベース化したり、インターネットで学校間交流をしたりといった積極的な活用は、まだまだ少数派。校務での活用も、ワープロ止まりが多いのが実情です。

「教育委員会によっては、校務関係の重要な書類はパソコンに保存しないよう指導しているところもあります。非常に消極的ですね。パソコンやインターネットを頻りに活用していないため、その本当の価値に気付かず、ますます活用しなくなる。当然セキュリティの必要性も実感できないのでしょう」

しかし、状況は劇的に変化しつつあります。「ミレニアムプロジェクトを見るまでもなく、今後は授業でも校務でも、パソコンやインターネットは必須となります。セキュリティの意識が低いまま、パソコンを活用する機会だ

けが増えればどうなるか……。セキュリティ事故を招くことになりかねません」

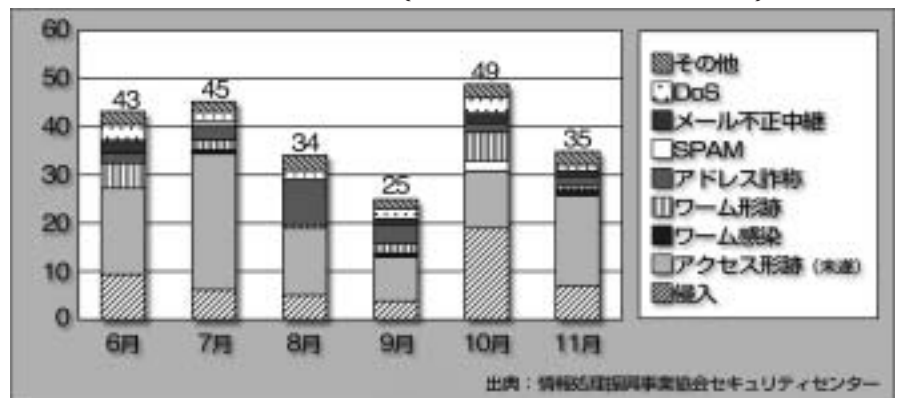
セキュリティトラブルはすでに学校で起こっている

事実、学校におけるセキュリティ事故は幾つもの報告され始めています。コンピュータウイルスへの感染、個人データの流出、子どもによる出会い系サイトへのアクセスetc……。ある高校では、生徒の成績データが外部に流出してホームページに掲載されるという事件も起こりました。

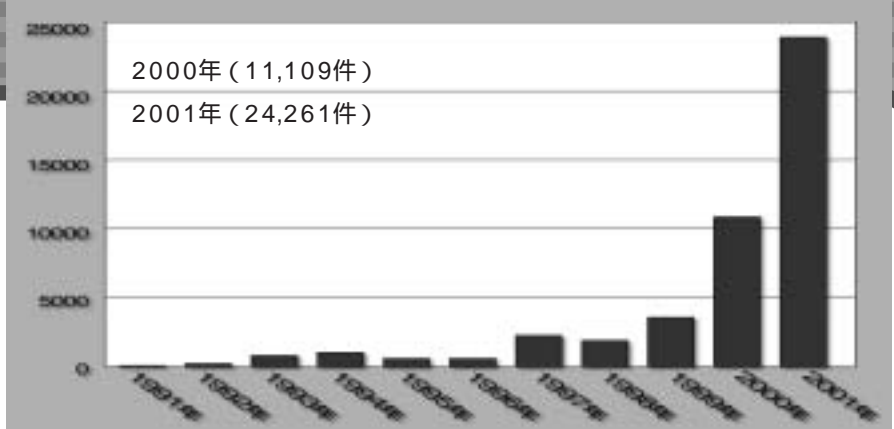
「セキュリティを欠いたままパソコンやインターネットを活用する機会が増えれば、間違いなくトラブルは増加していくでしょう。先生方の多くは、こういったトラブルが全国各地不正アクセス届出状況推移(2001/11~2002/4)

で起こっていることをよく知っています。でも、心のどこかで『しょせんは対岸の火事』と考えてしまっているんですね。『たとえウイルスに感染したとしても、壊れたら困るようなデータがパソコンに入っていないから大丈夫』と言う先生もいらっしゃいました(笑)。しかし、セキュリティに関するトラブルの怖さは、被害者になることだけではありません。いつの間にか加害者になってしまっていた、という怖さもあるのです」

その一例が、「踏み台」「なりすまし」というトラブル。最近のネット犯罪者たちはとても狡猾で、自分のコンピュータから直接不正アクセスを仕掛けることはありません。別のコンピュータに侵入してこれを操り、そのコンピュータを「踏み台」にし、別の人間に「な



ウイルス感染や不正アクセスなど、さまざまな事故が我々の周りで頻出している。どんな事故が起こっているのかを知り、セキュリティの重要性を認識しよう



ここ数年でウイルス感染が急増しているのがよくわかる。01年は前年に比べて2倍以上に増加。しかもこれは届出のあった件数のみであり、実際にはもっと多くの事故が起きている。「うちの学校は大丈夫」などは、もはや言っていない

りすまし」で、不正アクセスを行うのです。最近では、ある大学が「なりすまし」トラブルに見舞われました。大学のネットワークに侵入した犯罪者が、同大学のメールアドレスをかたって悪質なメールを多数発信したのです。もちろん犯人は学外の人間でしたが、結局学長が謝罪するという羽目になりました。「セキュリティを不備のまま放置しておけば、ほかの方々に迷惑を及ぼしたり、学校の信用を失う危険性があることを、よく覚えておいてください」

しかし、怖いのはこういった外部からの脅威だけではありません。学校現場においては、「内部」から発生するトラブルも非常に恐ろしいのです。

「学校にとって、一番守らなければいけないのは子どもたちの個人情報。しかしこの重要な情報が、教師や子どもたちのちょっとした不注意で外部に流出してしまうこともあるのです。これを防ぐためには、学校内でのパソコンの使い方や情報の取り扱い方法などの『ルール』をきちんと決める必要があります」

まずは先生がセキュリティ意識を高く持とう

とはいえ、『なるべくパソコンにデータを入力しない』『子どもには自由にパソコンを使わせない』といった消極的なルールを作ってしまうのは意味がありません。パソコンを積極的に活用でき、かつ先生方の負担にならないようなルールを決めることが大切なのです。その手助けをするのが、セキュリティ企業。坪本さんは、よく学校や教育委員会を訪れて先生方にセキュリティに関するレクチャーを行っているそうですが、どんなことを話しているのでしょうか。

「まずは、先生方もよく知っているコンピュータウイルスについて、感染したときの症例や対処方法を説明しています。また、最近は校内LANの導入を進めている学校が多いので、校内LAN整備に関する注意点もお話ししていますね」

最近では学校開放の流れで、校内に外部者が入ることもよくあること。そういった状況で学校内の全てのパソコンが校内LANでつながれば、不正アクセスや情報漏洩などの危険性にさらされることも考えられると坪本さんは言います。

「もちろん、校内LANを構築すれば利便性も飛躍的に向上します。しかし、それが気軽に安心して使える環境になれば、その利便性

も享受できませんし、積極的な活用もできません。せっかく大きな予算を使って校内LANを整備するので、かかったコスト以上の成果を出さなければもったいないですよね。そのお手伝いをするのが、数々のセキュリティ製品なのです」

ただ、セキュリティ製品は万能ではありません。全てのトラブルを、100%防げるわけではないのです。

「そのため、使う側のセキュリティ意識を高めることが非常に重要です。使う人の意識が高ければ、セキュリティ対策製品とうまくつきあえますし、かなりのトラブルも未然に防げる。さらに策定したルールをちゃんと理解し、正しく実行できるようにもなるのです。まずは先生自身がお手本となり、子どもに教えられるように意識を高めてください」

子どもが安心してパソコンを使える学習環境を!

先生方へのレクチャーでは、ファイアウォールやサーバなど専門的な話はあまりないそうです。ここには坪本さんなりのセキュリティに対する考え方が反映されています。「セキュリティは難しい、面倒だと敬遠している先生方に、ぜひとも知っていただきたいことがあります。それは、先生自身がセキュリティの専門家になる必要はまったくないということ。専門的な分野は、われわれのような企業がお手伝いいたします。セキュリティの重要性を認識し、セキュリティを整備する正しい方策をとっていただければ、十分なのです。先生の本来の仕事は、子どもへの教育。それを患わせることはありません。む

しろ、セキュリティ意識を高く持ち、正しいセキュリティ製品を導入することで、先生方の手間や負担はグッと軽減されるのです」

また、坪本さんは、「セキュリティには、教育効果を高める役割もある」と言います。

「セキュリティに不安があるから、トラブルに見舞われると怖いからといってパソコンやインターネットを使わないのは、非常にもったいないですし、子どもたちの学習機会を奪うことになりますよね。きちんとしたセキュリティを整えて、子どもたちが安心して、自由に、積極的にパソコンを使えるようにしてあげてください。そうすれば、教育効果が高まります。学校セキュリティとは『規制するもの』ではなく、教育効果を阻害する要因を防ぐものなのです」

セキュリティとは、受け身の防衛策ではない。学習環境を整える、前向きな手段であると、坪本さんは強調します。

「そのために、当社も学校現場のニーズに合った製品の開発に、日々努力しています。私も積極的に学校を訪問し、先生方と話し合い、授業を参観して、学校の生の声をヒアリングしています。食わず嫌いにならず、ぜひ積極的に教育効果を高める役割として活用してください」

* * *

3月号では、校内LANに有効なセキュリティ製品を導入し、IT活用の活性化に取り組まれている学校の事例をレポートいたします。しかもそのセキュリティ製品は、その学校の教育目標を達成するために生まれたものだから、セキュリティを積極的に導入している好例です。ご期待ください。

お問い合わせ

株式会社ジェイエムシー 公共事業部 事業推進グループ

〒221-0052

神奈川県横浜市神奈川区栄町1-1 アーバンスクエア横浜

045-440-4419 <http://www.jmc.ne.jp/> e-mail: ebcp@jmc.ne.jp

加盟団体

NPO 日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA)

社団法人 日本教育工学振興会 (JAPET)